

山本 恭正

#### 1. 事業実施の目的

2024 年度に提出を計画している博士論文を執筆するにあたって、論証を補完するデータを収集するため

#### 2. 実施場所

和歌山県白浜町と串本町周辺地域と和歌山県新宮市周辺地域

#### 3. 実施期日

2024 年 3 月 8 日（金）～ 2024 年 3 月 14 日（木）

#### 4. 成果報告

##### ●事業の概要

大阪府吹田市を出発して、和歌山県和歌山市方面に向かい、紀伊半島を一周する形で、各エリア、団体からヒアリング調査を実施し、移動ルート上に位置する新宮市立図書館で文献渉猟を行った。調査対象者（団体）は、主に研究テーマである熊野地方における古道に関連した以下の 3 団体である。

- ・和歌山県白浜町教育委員会
- ・大辺路富田坂クラブ
- ・国際熊野学会（新宮市教育委員会）

今回の調査では、熊野古道のなかでもデータを収集できていなかった大辺路周辺エリアと筏師の道に関連する団体に対して、重点的にアプローチを試みた。和歌山県西牟婁郡白浜町の富田会館においては、白浜町教育委員会職員と熊野古道大辺路富田坂クラブの 3 名に対して、聞き取り調査を実施し、熊野古道大辺路富田坂における文化遺産化や観光化の実情についてお話をお聞きした上で、活動記録、メンバー構成といった貴重なデータ一式お預かりさせていただいた。その結果、熊野古道大辺路では、同じく熊野古道である中辺路や伊勢路とは異なり、信仰ための歴史の道という側面から発見されたというよりも 1990 年代後半に白浜町教育委員会が主催する「ふるさとの山を歩こう」というイベントをきっかけとして整備されたことが明らかになった。

和歌山県新宮市においては、国際熊野学会事務局(新宮市教育委員会)職員に対して、活動報告と聞き取り調査を兼ねた面談を行い、博士論文執筆に際して不足しているデータの取得方法を相談させていただいた。また、同施設に付属している新宮市立図書館で、熊野地方史研究会と新

宮市立図書館が発行する研究雑誌のなかから、必要な情報を収集した。他にも、国立国会図書館以外では保管されていない『和歌山県聖蹟調査報告書』と呼ばれる近代以降初めて、熊野古道中辺路における熊野九十九王子を調査した文献資料を中心に文献渉猟を行い、博士論文に必要なデータについては複写した。

筏師の道と呼ばれる熊野古道とは異なる古道の創出に関するデータの収集については、筏師の道を守る会の責任者とお会いして、インタビュー形式のヒアリング調査を実施した。その際、広範囲に張り巡らされた道の一部のコースを実際に一緒に歩きながら、古道の魅力や筏師たちの足跡について理解を深めることができた。なかでも、筏師たちが多く住んでいた集落跡地やダム建設によって、筏がスムーズに流せなくなったため、新たに創設された迂回コースや施設の遺構などを見て回ることによって、一般には公開されていない熊野地方の近現代史の一側面を伺い知ることができた。

#### ●本事業の実施によって得られた成果

本事業を実施することによって、博士論文の構成上、不足しているデータを中心にアプローチし、執筆するために必要な部分をヒアリングや文献複写という形で収集することができた。本事業で得られた成果をもとに、調査データを整理して提示した資料を作成し、理論的枠組みを検討したうえで、速やかに博士論文の執筆に移行することができると考える。また、博士論文を完成させていくなかで、古道の担い手団体である尾鷲藪漕隊や大辺路刈り開き隊、熊野参詣道伊勢路におけるトレイルランニングイベントを事例とした研究論文の作成や研究発表などを適宜実施したいと考えている。

#### ●本事業について

以前のレポートでも記述したが、文化人類学を専攻する大学院生にとって現地における調査研究や国内外の学会発表などの研究活動は非常に重要であり、報告者は年に一度の割合で学生派遣事業の支援を受けてフィールド調査や研究発表を実施することができた。この事業は非常に有益な事業であり、今度も継続して欲しい